



子どもの育ちを支える日本子ども・子育てネット

ここネット通信



日本子ども・子育てネットは
日本の子どもが遊びながら豊かに育つことのできる社会の実現と
日本の文化と命をつないでいく子育てを支えていく活動をしている団体です。

令和7年 新年のご挨拶

ここネット会長・理事 柳溪暁秀

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、日本子ども・子育て支援センター連絡協議会（ここネット）の活動に対しまして、ご理解とご協力を戴き深く感謝いたします。

昨年は、元旦に「令和6年能登半島地震」が発生し、多くの方々が被災されました。ここに、衷心よりお見舞い申し上げます。

昨年は「**2024 子ども・子育て支援全国大会プレセミナーin熊本**」

テーマ 「**少子社会の子育て支援を考える**」

日付 令和6年(2024年)11月18日(月)

会場 くまもと森都心プラザ プラザホール

を主催が「熊本子育てネット」共催が「ここネット」として開催され、九州を中心に100名近くのご参加を戴き深く感謝いたします。

本年は「**第13回 子ども・子育て支援全国大会in熊本**」

期日 令和7(2025)年11月27日(木)～28日(金)

会場 熊本県民交流館 パレア(テトリアくまもとビル 9・10階)

で開催いたしますので多くの方々のご参加をお願いいたします。

【『ここネット』の道標(みちしるべ)】の『園でも家でもセンターでも、3歳までに質の高い子育て(保育)を!』を旗頭に、「和を以て貴しとなす」を大切にしてい、

「子どものための子育て支援」と「保護者のための子育て支援」の両方の事業を進めて参りますので、ご理解とご協力を戴きますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆となりますが、戦争のない平和な世界となる事と日本の少子化が解消される事を強く願うと共に、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝を願って、新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

新春のご挨拶

「日本は高齢者が多い。敬意を持って高齢者の世話をするロボットには需要があるはずだ。ロボットは日本が優位性を発揮できる分野の一つではないかと思う」と読売新聞のインタビューに答えたその人は、2024年のノーベル物理学賞受賞が決まったカナダ・トロント大のジェフリー・ヒントン名誉教授であります。皆さんはどのように捉えますか？

今後20年後？いや5年後にロボットにお世話をしてもらう身に成るのかと淋しさ半分、面白さ半分。だが「人間以上に賢いAI、早ければ5年後」「AIの脅威は単なるSFではない」人類の脅威になると同名誉教授は、発信しています。

同時に今年のノーベル平和賞は、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴えてきた日本被団協＝日本原水爆被害者団体協議会が受賞することになりました。

核兵器のない世界を実現するための努力と核兵器が二度と使用されてはならないことを証言によって示してきたことが受賞理由となっています。

この同時性に、ノーベル賞の審査した方々の、メッセージ性を感じました。

「原爆の父」オッペンハイマーは、広島・長崎に原爆が投下された際にはその成果を賞賛され、本人も喜びに浸っていたそうですが、実際の惨状を目の当たりにすると、その考えは一変し、自分のしてしまったことに怯えるようになりました。

同じように後悔したアインシュタインも核兵器撲滅を訴える活動を展開するようになります。

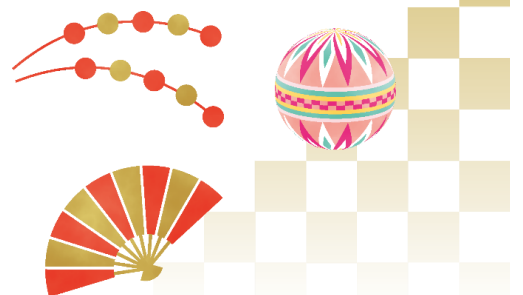
ジェフリー・ヒントン名誉教授の言動は、まさしくAIは、私たち人類にとって脅威だと、警告しています。

核と同じ、まさに、まさにそのことを現しています。

ノーベル賞が、人類の科学や平和に訴える役割を果たすように、マイクロソフト、GoogleなどはAI賞基金（仮称）を設立し、安全対策に重点をおいた研究に賞を創設することを提案します。

今私たちは目の前にいる子ども、若い保護者や保育者の未来への道が、平和と希望ある道となるよう意識改革が求められています。

ここネットの皆さんの願いは、まさに、まさにここ(・・)に(・)ある(・・)と信じます。



ご挨拶

謹賀新年

旧年中はお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年11月の熊本でのプレセミナー開催にあたりましては、皆様方のご協力のもとお陰様で盛会裏に終えることが出来ました。あらためて感謝申し上げます。

一日間のセミナーでしたが、非常に中身の濃い有意義な研修であったと、多くの参加者の方からご感想をいただいております。

三人の講師の方の現場からの貴重な提言をいただくことができ、参加者がともに課題を共有できたかなと思っています。

このプレセミナーの経験をもとに、本年度の全国セミナーに向けてステップアップできたらと思っています。

振り返りますと、昨年的一年間は、元日から能登半島地震、記録的な猛暑など、何か天変地異を感じるような年でもありました。さらに少子化のスピードが想定より早くすすんでおり、予測のつかない未曾有の時代に突入した感があります。

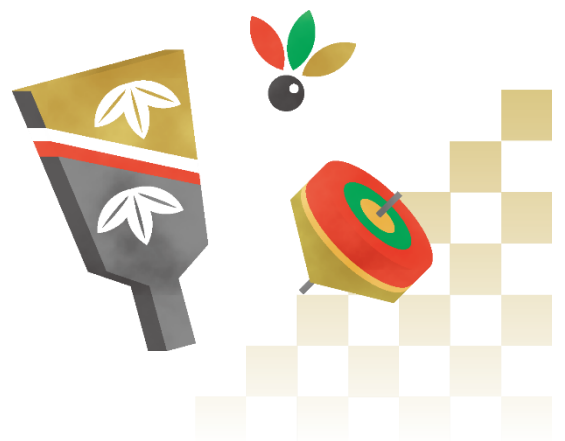
あらためてこういう時代だからこそ、今年も皆様とともに励まし合いながら、子育て支援の資質向上を目指して研鑽できればと思います。

皆様方のご協力よろしくようお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。

2025年 11月27日（木）～28（金）

第13回 子ども子育て支援全国セミナー in 熊本

会場 熊本県民交流会館 パレア



あけましておめでとうございます。インフルエンザが大流行していますが、年末年始のお休みで下火になることを祈るばかりです。皆様、お元気でいらっしゃいますか。

2025年はどんな年になるでしょう。私は、生成AIがどんどん私たちの生活レベルに入り込んでくる年になる予感がしています。

タクシーの中でスマホに「ねえ遅刻の理由を考えてよ」と問いかけると、あたかもそこに誰かがいるようなやり取りをしているテレビCMはご覧になったことがありますか。あれを観た時、時代がまた違う一線を越えた気がしました。Appleに搭載されているsiriはまだ序の口だったんだ…と感じます。

来春大学生になる娘は、課題について考察する時ChatGPTを使います。そしてそのChatGPTはどうやら使っていくとどんどん頭が良くなっていく、とのこと。そんな便利なものなら使ってみたい！と思いますが、私ですと赤ちゃんがフェラーリの運転席に乗るような、制御不能のイメージでいっぱいになります。

文部科学省では小中学生向けの生成AI取り扱いガイドラインを改訂し、全国の教育委員会に通知したと年末の新聞にありましたが、未就学児もその対象になる日は目前でしょう。親さんもお子さんもAIフェラーリを乗りこなし、時代の知恵を「健全に」活用できるようになるといいですね。手塚治虫先生が創造したアトムのをギューンと飛び越え、人類の着地する場所はどこな風景なのでしょう。不安でもあり、とても楽しみでもあります。

今年も皆さんの居場所として「人の温もり」をモットーに活動して参ります。昨夏にお知らせしました熊谷の「くまっしえ」活動のその後も追ってご報告いたします。本年もどうぞよろしく願いいたします。



新年のご挨拶

『はじめの100ヶ月の育ちビジョン』をみて思うこと

～子どもに関心をもつ大人を増やしたい～

新年明けましておめでとうございます。

一昨年4月、こども家庭庁は「こどもまんなか社会」を目指し子ども施策を統括的に担う事になりました。以降、国は本気で異次元の子育て支援政策を打ち出し、そこには相当な予算がつぎ込まれようとしています。これはこれで子どもや子育て家庭にとって良いことです。

ただし、子育て支援はお金だけではありません。子どもを産み育てることへの喜びや、やり甲斐、そして子どもの存在そのものが私たち大人社会のウェルビーイングをもたらす希望になるのだという社会全体に風が吹かなければ、おそらく少子化の今の流れは止まらないし、安心して産み育てる環境にはならないと思います。

日本社会は現在、少子化や核家族化さらに地域社会の劣化が進み、子どもや子育てにとって大切とされる「ひと」をつなぎ止め「ひと」と関わりをもつ空気が薄くなりました。

私たち保育所やこども園、子育て支援センターは、地域という舞台に子育てにやさしい空気を送る「ふいご」の存在でありたいと願っています。

私たち人類は、「子どもは一人では育たない」「子どもは一人では育てられない」という生き残り戦略を運命づけられた動物です。少子化や核家族化の現代社会の中で消えかけている「共同養育」の火を再び熾せるように地域の中に子どもに関心をもつ大人を増やしていきたいと思えます。

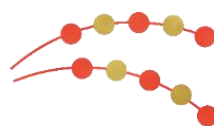
そして地域や社会が子育て親子の安心できるネスト（巣）のような存在になることができれば、子育て家庭だけではなく、全ての子ども、大人にとって生きやすい、暮らしやすい社会、地域になると思えます。

まさに『はじめの100ヶ月の育ちビジョン』です。

これは、国として保育所保育の子どもに限らず、妊娠から就学後の全ての子どもを対象とした初めてのナショナルカリキュラムです。そのビジョンのまんなかに「安心と挑戦の循環」が盛り込まれました。まさに養護と教育の保育の力は、全ての子どもと全ての大人のウェルビーイングにつながるという道筋を示したものと理解しました。

私たち保育者や子育て支援者としてのこれから使命は、益々大きくなっていくと思えます。保育をまんなかに据えて、全国津々浦々で「子どもに関心をもつ大人を増やす」ことに知恵と汗を流したいと思えます。

今年もどうぞよろしく申し上げます！



ここネット新年のご挨拶

令和6年も暮れました。歳末の自室にてこれを書いております。

歳末のなかで思い出すことがあります。

それは、昔、エレン・ケイが20世紀を目前とした1900年に「20世紀は児童の世紀である」と高らかに唱え、予言しました。1900年刊行の著書「児童の世紀」であり、教育における児童中心主義運動の発端ともなったものであります。

残念ながら現実にはエレン・ケイのとなえたようにはならず、20世紀は2度の世界大戦を含む各地の戦争、紛争、テロが相次ぎ戦争の世紀となったのです。世界の子どもへの被害は甚大でありました。

ひるがえり、いまや2024年の暮れであり、21世紀を20年あまり過ぎた現在でもなお、ウクライナ戦争、イスラエルと中東の戦争が尾を引き爆撃などの応酬が続いております。

このような状況は、人類それぞれが思想・信条・宗教の違いを認めずに諍いを続けるように見えます。

この現状にかんがみ、いまや人類は民族など少々の違いは飲み込み、解消してゆく叡智が求められております。

スウェーデンの女性思想家であるエレン・ケイの希求した児童の世紀出版に遅れること100年の21世紀の現在、いまだ世界は戦争の只なかにあります。

20世紀は戦争の世紀であった、しかし21世紀のこれからこそは児童の世紀となることを祈りながら遠くで除夜の鐘を聴き、瞑目しつつ願いたいと思います。

皆様の健康と世界平和を祈念して謹んで新年のお慶びを申し上げたいと存じます。

令和7年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

